



### 問題集禁止令・予習禁止令

●創学舎では、それぞれの教科で副教材をこなしてもらわないといけない。特に高三はそれぞれの教科で複数の教材と取り組むことになる。その目的は、授業だけでは補いきれない演習量をこなしてもらうこと、英単語などの知識を覚えてもらうことなど様々である。

●当然、学校でも課題を与えて、小テストをするなど様々な仕組みを考え、生徒の学力伸張に努力をしているようだ。その結果、学校と塾を合わせれば、莫大な数の教科書、テキスト、問題集を生徒は手にすることになる。全部を完全にこなすのは、勿論不可能で、やることを絞るこみ、やり方を工夫していくことが求められる。そして、その手伝いをするのが、私たちの役目となる。

●そこで問題となるのが「考える」習慣であり、そのために「聴いて(理解して)、調べて、考えるための準備を整える」習慣が身につけているかどうかである。前回、こうしたこと「成績のよかった親や成績のよい生徒が無意識の前提としていつの間にか身につけていたものである」と述べたが、この前提が勉強の成否を決める。

●さて、私が見るところ、高校生の半分以上は、この前提が欠落している。学校でも塾でも「聴いて」いない。右の耳から左の耳へ、ただ音が抜けていく。語られる言葉の意味をとり、どう

いう内容なのか理解するのが「聴く」だが、当人にとって、極めて易しいこと、つまり努力しないで受けとめられること以外は聴いていない。学校の教師は、前を向いてノートをとっていたら、「真面目です。」というのかもしれないが、こんなのは真面目でも何でも無い。生産性ゼロの無駄な時間であり、こういうことを重ねると頭は悪くなっていく。そもそも「理解する」とはどういうことなのか分かっていない。音として、文字として認識できればそれが「理解する」ことになっている様だ。

調べることはしない。調べた習慣がないし、疑問がわいてもそれは一瞬で、すぐに忘れる。疑問点があつて、それが気になって仕方がないというのが望ましい在り方だが、程遠い。



●悲しいことに、この前提が身につけていないで、しかし志望校への熱い思いを胸に、一生懸命がんばる生徒がたくさんいる。やればやるほど頭が悪くなるのに、がんばる。勿論、面談をとって、こちらも懸命に説得して「考える」ように説得するのだが、なかなか伝わらない。当然伸びない。申し訳ない気持ちと無力感で、この仕事をやめたくなることもある。

●そこで、今年は、考えない生徒には問題集禁止令を出すことにする。「きみは、やってもムダだからやるな!」とやってやろう。また、演習に入ると、入試問題の予習が必要なのだが、これも考えない生徒には予習禁止令を出そうと思う。「きみは、やってもムダだから、予習しないほうがいいよ。」本当は「授業にも出ないほうが

いいよ。」とまでいいたいのだが……。

●それにしても、小中高といつの間にか積み重ねられた「考えない」習慣は、恐ろしい。受験のみならず、その後の人生には大きな影をおこす可能性もある。資格勉強でも苦労するだろう。卒論とか書けるのだろうか?会社に入ったら企画書など作れるのだろうか?プレゼンテーションはできるのか?



●いやいやこういうことを考えれば、ほうつてはおけない。また、粘り強く説得しよう。そして、一人ずつきちんとやり方を身につけさせていこう。ということで、また孤独な闘いは続く。(小林)

### 「我がが教室の至宝②」

他の講師の紹介はどうなったのかというご指摘を多数いただいた我らがパーソナル柏教室の講師陣。約一年数ヶ月ぶりになってしまったが、彼らを紹介する機会が再び巡ってきた。字数も限られているので早速紹介していこう。



「T. M. 先生」 柏中学校出身。

仕事をテキパキとこなす子供大好きな講師。女子バレーボール部キャプテンでありながら高校時代の評定がほぼ満点という文武両道の女傑?文系担当。

「A. Y. 先生」 流山南部中学校出身。

生徒に熱く語りかけて学習させることが得意。高

校生の頃から目標の達成に向けて熱心に取り組む姿勢が感じられる理系の男性講師。

「K. T. 先生」 豊四季中学校出身。

百人以上所属している英語サークルを束ねる男性クールな印象を受けるが熱いものを内に秘めた理系講師。女子生徒のファン多し。

「S. Y. 先生」 柏中学校出身。

我々が教室の「フーメン先生」。よく同僚を誘っては仕事帰りに食べに行っている。国語を専攻しているサッカー部出身の男性講師。

「T. T. 先生」 柏第二中学校出身。

「ザ・おしとやか」。清楚で落ち着いた雰囲気を出している女性講師。女子高出身と聞けばみんなが納得するような人。文系担当。

「Y. K. 先生」 柏中学校出身。

教科書英文テストの練習方法に人一倍こだわりを持っている理系講師。時には生徒に厳しい一言を言うこともある建築専攻の男性。

「S. Y. 先生」 光ヶ丘中学校出身。

受験対策を論理的に説明して納得させ、絶大な評価を受ける男性講師。意外なことに柏駅周辺のラーメン屋はほぼ制覇しているらしい。文系担当。

「N. C. 先生」 柏第二中学校出身。

おとなしそうな容姿からは想像できないが中学時代は剣道部に所属。最近では料理の腕も上達してきたとの噂。理系担当。

「K. M. 先生」 柏第二中学校出身。

合唱団に所属していた女性講師。小学生から空手道場に通っていたとは到底見えない。生徒目線で生徒に接することに長けている。

「H. H. 先生」 小金中学校出身。

履歴書の趣味欄にウエイトトレーニングと書いたアスリート。教えることが苦手だから講師をして

克服したいという努力家でもある。我らが教室の「ザ・実直」。建築専攻の理系男性講師。

【M. M. 先生】 柏第四中学校出身。

中学、高校と吹奏楽部に所属し、大学ではベーストとして活躍する音楽一筋の女性講師。女子生徒からは何でも相談できる姉御として評価されている模様。文系担当。

【Y. Y. 先生】 柏第二中学校出身。

中学時代は柔道部、高校時代はハンドボール部に所属。法律を専攻している。将来の夢は裁判所書記官らしい。文系担当。

【Y. M. 先生】 柏第二中学校出身。

N. C. 先生、K. M. 先生の小中学校の同級生。ガチガチの真面目人間の印象を受けるが、最近はいいい意味でくだけてきた様子。二郎系ラーメンが好物らしい。文系担当。

【I. H. 先生】 柏中学校出身。

中学、高校と野球部出身。電子応用工学専攻。最近はスーツの着こなしが一段と板についてきた理系の男性講師。

今回の最後に一応自己紹介を。

【教室長 Y. M.】 市川第二中学校出身。

経営学専攻。幼い頃の夢はゴジラやウルトラマンの製作だったが美術センスが皆無であることに気づき、製作から視聴に転向。現在は温泉旅行と乗り物、火山に造詣がある。



よろしく願います

さて、どうだったろうか。このような個人的な講師が生徒に対して日々一生懸命授業を行っている。それぞれの講師に特長があり、言うなれば当教室は総合病院みたいなものだ。学習や受験など

でお困りの際は遠慮なく連絡をいただきたい。なお、字数の都合で全員の紹介はできていないので、続きはまたの機会に。

(山崎)

### 後悔を活かして成長しよう

このニュースをみなさんが見ているのは、大型連休も終わり、中学生は一学期の中間テストの前後だと思えます。大型連休はどうでしたか。家族と楽しい時間を過ごした人、部活動で毎日忙しかつた人、友達とたくさん遊んだ人、ゆっくりと過ごした人、いろいろな人がいると思います。

しかし、中には「〇〇しておけばよかったな」、「もっと〇〇すればよかったな」、と思っっている人も多いのではないのでしょうか。そう、それは後悔です。後悔とは「後から悔いる」と書くように終わった後にしかできないのです。今回は「後悔」について私の意見も含めて述べていきます。

まず、「後悔」とは何なのでしょう。辞書を引いてみると「してしまったことについて、後から悔やむこと」とあります。やはり字の通りですね。してしまったこと、とあるように後悔は経験してからでないといけません。みなさんは後悔したことがありますか。

後悔をすることはよくあると思います。私も毎日、後悔をしています。あの授業のあの場面では、こういう言い回しのほうが、もっと早く生徒たちが理解することができたのではないか、昨日あと一時間早く布団に入っていればよかったな、など。本当に小さなこともあります(笑)。

最近、過去の甲子園の特番をテレビで見ているら、試合でエラーをしてしまい、それがきっかけ

でチームが負けてしまったある高校球児のインタビューが流れました。その高校生は「あのミスを知っている状態で、もう一度、甲子園に立つてプレイをしたい」と言っています。



した。もちろん、後悔はしていると思います(あのミスがなければ勝っていたかもしれない)。私には、もう一度その舞台に上がれるのならば、ミスしてしまった経験を活かして同じ場面でも同じミスをしないようにしたい、と言っているようにも聞こえました。ミスしてしまったことを後悔しつつも、しっかり受け止めて、反省して、同じ過ちを起こさないように前を向いている高校生に感嘆しました。

野球に限らず、勉強、仕事、人間関係でも、どんなに努力や注意をしても失敗や間違いはしてしまいうものです。ただ、その失敗や間違いを後悔するだけで終わるのではなく、その悔しさを忘れず、受け止めて、反省して、次は後悔をしないように行動をしていくことがとても大切なことだと思います。簡単に悔しさを忘れずに、と書きましたが、嫌な思い出を人間の脳は勝手に消去しようとしてしま

す。そこで、忘れないように反省は頭の中だけで考えるのではなく、ノートに裏に書いたり、いつでも目に付くところに貼ったりするのもオススメです。

人生に後悔はつきものです。ただし、その経験を次に活かすことができれば、決して悪いことではありません。

(佐々木)

# 創学舎百人一首大会

6/23(土)

創学舎では、小学生を対象に『百人一首大会』を開催します。創学舎に通っている方はもちろんのこと、普段創学舎に通っていない方の参加も大歓迎です。成績優秀者には豪華景品も用意しています。皆さんの参加をお待ちしています！

**場所** 創学舎 柏教室

**時間** 1:00p.m. ~ 3:00p.m.

**対象** 小学生全学年

※創学舎に通塾していない方も出場できます

**申込** (通塾生) 出場申込書を受付窓口に提出  
(通塾生以外) 柏教室にて窓口受付または電話受付

